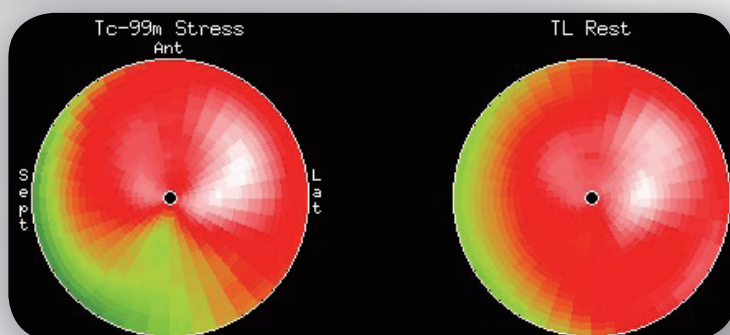
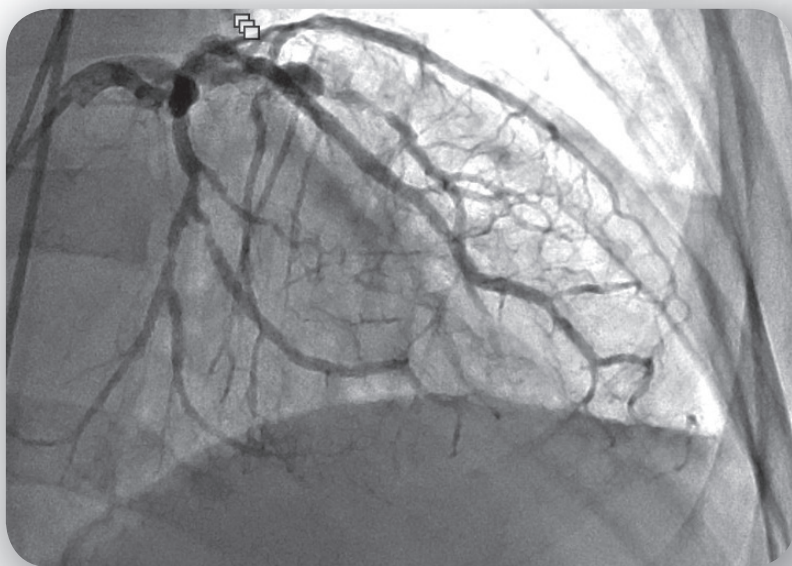


特 集

# 透析患者の画像



(写真：p.1140, 1148より)

# 診断

## 序説

人工透析の患者は定期的にCT検査を受けている。腎細胞癌の合併や腹膜透析の合併症を検討するためだが、偶発的に大動脈瘤や関節アミロイドーシスを発見することがある。透析の画像診断は、代謝異常に伴う全身疾患の画像診断でもある。

透析の患者は心血管合併症を生じやすく、死因の1/3は虚血性心疾患や重症不整脈である。突然死も珍しくなく臨床現場で混乱をよぶこともある。さらに中枢神経系の合併症や易感染を基礎とした合併症を生じやすい。透析の経過観察の画像診断はともすれば退屈になりがちが、ひとたび合併症が生じれば、その画像は平時の状態を表すベースラインである。全身に及ぶ画像診断や比較診断は、放射線科医が会得すべき読影能力である。

今回の特集号には透析患者の画像診断を取り上げた。筆者が知る限りでは、約10年前に他誌が同様の話題を取り上げたのみである。この間、透析技術は進歩した一方で、高齢化や成人病の広がりにより、透析患者はますます増加中である。そのような透析の臨床動向を鎌田有子先生らに解説いただいた。透析患者の血管病変の病理像は小山 裕先生らに解説いただいた。小山先生が光干渉断層像の画像を提示しているのに対し、放射線科の江戸博美先生らが透析合併腎細胞癌の病理像を提示しているのは、透析に関連した疾患の画像と病理の対応が重要であることを示している。藤網隆太郎先生らにはシャントトラブルのIVRについて、さらに中枢神経系の多彩な合併症については清水幸衣先生らに、骨関節系の合併症については小池玄文先生らに解説していただいた。

上記に述べたとおり、透析患者の最大の死因は心血管合併症である。この病変の評価に心臓核医学を用いた経験を循環器内科の依田俊一先生に、CTやMRIを使用した報告を大森裕子先生らに提供していただいた。これらの総説は放射線科医のみならず、透析合併症にかかわる多くの診療科の先生方に有用である。

本号は、読者諸氏が透析の患者の画像を読影する際に、傍らにおいておくべき特集号になったと思う。

天野康雄